

令和5年度 第1回近江八幡市子ども・子育て会議 要録

日 時 令和5年8月8日（火）10時00分～12時10分

会 場 岡山コミュニティセンター 多目的ホール

出席委員 会長：中川 千恵美委員、 副会長：久木 康行委員、
山本 一成委員、 榎本 祐子委員、 浅井 雅委員、
大橋 由喜委員、 川嶋 弘美委員、 津田 幸子委員、
八木 明恵委員、 秋村 加代子委員、 伊崎 葉子委員、
井上 和美委員、 北川 美由紀委員、 村井 孝一郎委員、
見島 めぐみ委員、 深尾 甚一郎委員、 山田 さつき委員
(欠席) 佐野しのぶ委員、伊賀上 秀彦委員、上田 恵美委員、
石塚 千恵委員、久家 昌代委員、

傍 聴 者 0名

議 題 (1) 役員の選出
(2) 第二期子ども・子育て支援事業計画 ハチピープランの進捗状況について
・法定事業にかかる令和4年度実績報告について
・重点取組にかかる令和4年度進捗状況について
(3) 近江八幡市児童福祉の状況について
(4) 第三期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープランの策定について
(5) こども計画について
(6) 情報提供
・放課後児童クラブについて

議 事 詳 細

1. 開会

○会長挨拶

会長：次期計画の策定に向けて、皆さんが現場で何を大切にして活動しているか、それらをどう市の施策に反映していくかについて、限られた時間であるが議論したい。全ての子どもを対象に、近江八幡市に住んでよかったと思える、近江八幡での子どもの育ち・子育てを応援していける社会、地域にしていきたい。

2. 議事

(1) 役員の選出

○久木委員が副会長へ選出

副会長：皆さんと力を合わせて近江八幡市の子育て環境の向上を図りたい。

(2) 第二期子ども・子育て支援事業計画 ハチピープランの進捗状況について

- ・法定事業にかかる令和4年度実績報告について

○事務局より資料2について説明

- ・重点取組にかかる令和4年度進捗状況について

○事務局より資料3について全体の説明

○事務局より基本目標Ⅰ、基本目標Ⅱの説明、事業⑫修正

質疑

委員：八幡西の地域子育て支援拠点事業について、見込みに比して利用が少ない。増やす方法について伺う。

子育て支援課：現時点で増やす予定は無い。八幡西子どもセンターの老朽化が進んでおり、市全体の子育て支援拠点のあり方を含めて検討していく。

会長：法定事業ではないが、全ての子どもに対する食育は、子どもの貧困対策の観点から重要性を増していると感じた。

○事務局より基本目標Ⅲ、基本目標Ⅳの説明

質疑なし

○事務局より基本目標Ⅴ、基本目標Ⅵの説明

質疑

委員：事業⑳男性の子育て参加への啓発について、前年度比で達成は出来ているが、実数としては低調だ。基準としてこれでいいのか。

子育て支援課：コロナの影響で、参加者が減っている。男性の参加人数63名という数字は、十分とは思っていないが、数値目標が設定しづらい。意識としては定着しつつあると思うが、目標について考えていきたい。

委員：9歳違いの子どもがいる。最初の子と比べてお父さんの子育てへの関り方が変わってきていると実感している。

会長：父親の育児へのかかわり方が、第2子の出生と相関があるという研究がある。大事な論点だ。

委員：事業㉑養育支援事業について、利用実績なしであるが、目標との乖離について理由を伺いたい。

子ども家庭相談室：対象となる方に案内をするが、断られることが多い。利用実績が上がらない理由として、使用できる対象者の範囲が狭いという指摘もある。今年度、レスパイト的な使い方ができないかということで内容を変えて実施しており、実績が上がっている。予防的な取組ということで、健康推進課と連携して、取組を進めている。

委員：対象者は把握しているのか。

子ども家庭相談室：把握している。今後、健康推進課と話を詰めて、アプローチを改善していきたい。

会長：そもそも対象者をどう設定するか。事務局からの説明にあった、低中リスクの状況での把握は、大事な視点である。

(3) 近江八幡市児童福祉の状況について

○事務局より資料4について説明

質疑

副会長：「④幼稚園入園・保育所入所・認定こども園・待機児童数の状況」について待機児童数から除かれる者とは、どのような者か。

幼児課：国の調査の基準を用いているので、育児休暇を利用している、特定の園の利用を希望しているというものがあり、それに該当する方である。

副会長：育児休暇を利用して、園の利用希望している方は含まれないということか。

幼児課：はい。

会長：保護者の方の利用希望もあるが、一方で育児休業の定着という意味もあるだろう。

委員：「⑮ひかりの子の状況」について、対象者は増えている実感があるが、利用者数は減っている。理由は何か。

発達支援課：令和二年度については、待機が生じていることから、対象を広げるため、週2回利用している方を、週1回利用にしたため、減っている。また、障害の受容をされない方が増えているため、当課に繋がっている子どもが減っている。

委員：週2回利用が必要な子どももいると思う。

発達支援課：皆さんに満遍なく使っていただきたいという思いで、週1回に限定している。民間の施設も増えているので、そちらへ案内をしている。

委員：放課後児童クラブについて、利用希望はあるが高学年であるため入所できないだろうと思い、申込を控える人がいると聞いている。そのような潜在的なニーズについて、把握しているか。

子育て支援課：高学年に比べ低学年が優先的に利用できるように設計している。そのため、1年生の方が点数が高くなる。潜在的なニーズは把握していない。

委員：高学年の申込の場合、クラブから入所が難しいと促されることがある。

副会長：私のクラブではそういう話はない。早い方は夏休みから来年度の利用について相談される。高学年の場合、結果としてポイント計算になって、利用できないことがあるかもしれないが、申込の段階で、断るようなことはあってはならない。

事務局：市の方でも申込の段階で、断るクラブがあるということは聞いていない。

会長：各委員の意見にあるように、利用について多様性や個別性がある、そのため、ニーズへのアセスメントの調和を図る必要がある。

(4) 第三期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープランの策定について

○事務局より資料5の説明

意見交換

委員：社会福祉協議会で新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少した世帯に対して貸付を実施した。そのうち、返還が必要である市内9,000世帯の中で、6割以上が無反応。この世帯の中に一定の子育て世帯が含まれているという状況。ひとり親の相談が減っている。新しい計画の中で、貧困対策が盛り込まれるので、ひとり親家庭の話をどう盛り込むか、連携したい。

委員：ファミリーサポートセンター事業を実施している。用事があるなどの一般的な理由で利用される一時預かりに加え、最近は、ちょっとしんどいから、子どもを預かってほしいというケースが増えている。養育支援訪問も市の依頼でやっているが、利用できる人が限られている。もう少し使用のハードルを低くできればよいと思う。経済的理

由で利用ができない人への対策について、次期計画に盛り込めたらよいと感じている。

委員：子育てはしんどいという状況になっている。余裕がない。仕事と生活が苦しい。みんなが定時で帰られるようになれば、社会が変わっていくと思うが、根本的な部分で時間がない。そのことについて具体的に何かできないか考えていきたい。教師は家族を犠牲にしないとできないという声も聴く。この点に具体的なアプローチをしたい。

委員：アンケートについて、対象を幼稚園から中学3年生までにした方がよい。幼稚園にも貧困に関するアンケートを実施して欲しい。

委員：仕事の中で学生を祭に引率する事業を実施している。その中で地域コミュニティについて、解体されていると感じる。近江八幡市でも子ども会などの子どもの社会基盤がなくなっているように感じている。社会の中でのこどもの位置付けを考えてほしい。アンケートの対象に、市外の学校に通っている本市児童は入らないので、対象を検討して欲しい。

委員：利用者支援事業のアセスメントの実態に関する全国調査を実施した。基本型と母子保健型の調査をした。母子保健型はリスクアセスメント型になるので、利用者の多様なニーズに対応できない。基本型は、寄り添う力があるが、アセスメントが弱くサービスに繋いでいくのが難しい。この2つをどう連携するかが課題。アセスメントをしても、個々に応じたサービスがない場合や不十分である場合がある。そのため、寄り添うだけという結果になり悪循環になりがち。こども真ん中社会ということを考えていく必要がある。

委員：こども基本法において、こどもの意見表明権があり、こどもの声を反映させていくことが大事。委員の皆さんもこどもの声を代弁しているが、そういった声をどう拾っていくかを考える必要がある。

委員：アンケートについて、答えた先どうなるか、先に繋がっていく支援をやっていく姿勢を、どのように見せるか考える必要がある。

委員：インクルーシブ教育を第3期計画の中に入れてほしい。復籍制度が始まっているので、期待している。市が実施するアンケートの対象を市内の子どもたちに限定すると市外の小学校に通っている市内の児童が回答できない。ウェブを活用してアンケートの対象を広げてほしい。

委員：利用者支援事業を「はちはぴ」で実施している。子育ては日常生活の一部であると感じている。私たちだけでは対応できない場合があるが、そのつなぎ先がない場合がある。つなぎ先を含めてみんなで考えていく必要がある。復職をしている女性が増えていたため、お父さんに育児の参加してもらうことが重要になると考えている。

委員：少子化であるが、保育所を必要とする保護者はいる。最近、延長保育を利用する人が減っている。家庭での親子の時間をどのように使っているか、調査してほしい。

委員：幼稚園のニーズが変わってきていると感じている。事業⑫において、幼稚園だけが残食の対象となっている、幼稚園の数や利用者が多い時期に策定されたものだと思うが、今は幼稚園の数も減ってきているので、対象の見直しが必要と考える。就学前からその後の教育につながるように一体的な取組が必要。

委員：教員には夕方がある生活を送ろうと話をしている。教育も面白いということを実感として担任に感じてもらいたい、子どものアイデアを活かして双方が面白いと感じてほ

しい。数値目標は必要だが、数をクリアしたら正解というわけではないので、単に数字を見るだけでなく、浸透しているかどうかが大事だ。

委員：教師にとって、働き方改革が求められる一方で、定められた時間内に終わることが教育ではないという考えもあり、葛藤もある。他の職とは異なると思う。図書館の利用について、タブレット利用が当たり前になっているが、紙離れ本離れしている。ぜひ図書館の利用をすすめてほしい。また、近江八幡市では、医療費が高校生まで無償化している。このような進んだ取り組みを大事にしてほしい。

委員：行政だけでなく、地域で取り組むこと、どんどん入れていく必要がある。行政だけでなく住民全体で進めていくことが必要である。

委員：産後ケア事業について、利用できる対象がかなり限られていているし、実費負担が大きい、またステップファミリーでも使えるように改善をお願いしたい。

(5) こども計画について

○事務局より資料6の説明

質疑なし

(6) 情報提供

・放課後児童クラブについて

○事務局より資料7の説明

質疑なし

3. 閉会

副会長挨拶

副会長：現場では、コミュニケーションが大事、委員の皆さんがそれぞれのコミュニティの中で得た意見をこの子ども・子育て会議に反映させていければいい。